19. 核医学データの磁気テープファイリングの基礎的検討

久田　欣一
(金沢大学　核医学科)
○小島　一彦
(金沢大学　医療技術短大)

コンピュータを用いて磁気テープに多くのデータを高密度に記憶，整理保管し，必要な時ただちに再生できるシステムが各方面で試みられている．核医学においても，コンピュータでデータを記録整理する目的からアイソトープの種類やスキャン所見など臨床上必要なデータのコード化が検討されつつある．データ整理上．個人単位のデータにはこれらの各種検査データおよび所見の記載と同時にデータの見出し，すなわち個人識別情報の記載も欠くことができない．そこで本報ではFAC-OM-230/35を用いて磁気テープファイリングの基礎的検討として，まず個人情報にもとずく個人識別について二三検討を試みた．

なお，ここでは放射線学会での核医学コード化試案とはやゝ異なる個人識別に都合のよい個人情報をコーデイングし，とくに姓名をコード化し，姓名による個人識別を試みた．個人識別による個人データの検索は，とくに確定診断のように検査日より時期的におくれてわかるデータを正確に当人のデータに追加する際には是非必要と思われる．なお，さらに臨床上必要なデータのコード化が完成したとき，ただちに活用できるような，デコーディングプログラムについても検討を行なった．

20. スキャン所見および病名のコード化 (第1報　肝スキャン)

○油野　民雄　　小島　一彦　　鈴木　　豊
久田　欣一
(金沢大学　核医学科)

昭和37年5月，金沢大学で ^{198}Au-コロイドによる肝スキャンを開始して以来，すでに6,700件の肝スキャン数に達し，近年肝臓診断学での肝スキャンの占める役割の向上と，肝複合RI検査法の確立に伴い，肝スキャンの情報処理の必要度が増してきた．日本放射線学会コンピューター委員会で核医学診療のコーデングが試みられるようになったのを機会に，肝スキャン所見ならびに病名診断へのコーデングを試みた．肝スキャンは，網内系細胞に摂取される核種を用いたスキャンということに限定し，それについて患者氏名，性，生年月，スキャン番号，検査年月，使用装置，使用核種，他の肝RI検査有無，肝スキャン所見，肝スキャン診断，病名診断という項目を設け，IBM発行1カード80桁という規定におさまるようにコード化を進めた．肝スキャン所見については，現在ルーチンに実施している前面像と右側面像のコード化を行ない，肝位置，形態，内部構造，大きさ，右側面形態，生理的下方凹み，欠損等，また脾描画，骨髄に関しても記載した．病名診断については，ICDですでにコード化された様式に従い，不都合な部分を一部訂正した．また，肝への複数疾患に対する処置として合併症有無という項目を設け，また全身疾患のさい，実際に肝病変の有無のことが問題となるためその項目も併せて記載した．

質問：　佐々木常雄（名古屋大学　放射線科）

先生の考案された肝スキャンの診断コード表と肝スキャンレポートの取扱いをどのようにお考えになっていますか．

回答：　油野　民雄（金沢大学　核医学科）

レポートとしては，肝スキャン所見まで提出し，病名が確定された段階で，その都度，病名を記載していきます．

21. 軸方向撮影肝シンチグラフィー

犬飼　昭夫　　勝又　　昇　　西山　忠明
斉藤　健二　　長島　　章
(東海逓信病院　放射線科)
金子　昌生
(名古屋大学　放射線科)

(緒言)

従来肝シンチグラフィーの撮影は正面，側面，斜位等がなされて来たが立体的な肝臓の観察には不充分であると考え，あらたに軸方向からの撮影を行う事により俯瞰的な所見を得ようと試みた．

(方法)

核種は ^{99m}TC-S-Colloid を使用する．立位又は坐位で頭を強度に前屈させ肩及び上肢を出来るだけ前に出し，シンチカメラを上方から押しつけて肝臓を上からのぞきこむ様な姿勢で撮影した．臨床応用として9例を対象と

Presented by Medical*Online